



## 北京の大病院に巣食う闇救急車 死人搬送も可能と

新浪新聞

news.sina.com.cn 2017-01-22

00:09

来源: 新京報

原題：北京の大病院に巣食う闇救急車 無資格で死人搬送も可能と

北京では、どうやって救急車を呼ぶのか？ この問題の答えは『120』や『999』への電話だけとは限らない。

『重大事故分隊 37 号 (微信 ID: zhongan37)』は、最近の調査で、301 医院 (宮本注: 解放軍総医院のこと) や積水潭医院、友誼医院、天壇医院などの大病院周辺で、正規の救急車だと称する救急車の各種車両を発見。これら車両の多くが外地ナンバーで、患者の転院やステーション搬送、救急などのサービスが可能だと称しており、車の所有者が病院内部にネットワークを張り巡らし、介護ヘルパーや清掃員などが彼らのために商売を紹介していることを発見した。

事情を知る人は、これら大病院周辺に巣食う外地ナンバー救急車は、その 80%以上が正規の救急資格や資格を持った医師を持っておらず、車両の多くが自家用車であり、一部は外地にある病院の救急車と言われているが、實際上、既に何年もの間、本市や衛生部門の年度車両検査を受けたものはなく、非合法のオペレーションだとのことだと話してくれた。

『重大事故分隊 37 号 (微信 ID: zhongan37)』は、2012 年当時から北京市における無秩序な『闇救急車』に注目していた。4 年が経ち、重大事故分隊 37 号は依然としてこの現象が存在していることを見つける。北京市救急中心 (以下『センター』) のスタッフは、当地の院前救急車両が不足しており、正規の救急車では、患者の長距離搬送ニーズを満たすすべがなく、救急市場のギャップにあって、病院周辺の闇救急車が集中して出現、正規の救急車と患者の争奪戦を繰り広げているという。

業界関係筋は、無資格の『闇救急車』を選ぶことは、患者と家族の利益を保証できないという。

北京の闇救急車を内定： 無資格で病人でも死体でもなんでも搬送すると 新京報動ニュース (ID: xjbdxw)

### 病院内外に『推薦ネットワーク』が

1 月 9 日から 17 日まで、重大事故分隊 37 号が、患者の家族に扮して、北京にある大型病院の多くを探ってみたところ、非公式救急車を見つけることは難しいことではないということを見つけた。

積水潭医院では、救急車が必要なケースが出ると、一名の車両管理員が手慣れた感じで私を病院の南門近くにあるとある商店に連れていってくれた。店主は、彼の紹介する救急車はプライベートなものだが、車には絶対に問題はなく、『正規の救急車と同じだよ』といった。その後、彼は携帯電話を取り出して、私を救急車両員につないだ。

電話に出たのは、馬と名乗る男性で、彼の「車は全て正規の救急車であり、車上には設備も搭載されており、医師の随行もできる、また、医師は『全て病院から来た人たち』で、医師資格も持っている」と語った。もし搬送中に患者が緊急事態に陥っても、医師が直ちに緊急処置をしてくれる。薬が必要になった場合には、合意した搬送費に薬代を加算される。馬氏は、先に車を見てもよい、デポジットを払えば病院に搬送できる。もし、『大奔 (豪華タイプ救急車のこと)』になったら、20 元/km でいいと請け合った。

重大事故分隊 37 号が、馬氏の提示価格が高すぎるので、「別の車」を希望したところ、即座にもう一人、別の車両管理員が一つの電話番号を教えてくれた。次なる相手は『白主任』と名乗ったが、プライベートの救急車を僅か 5 元/km で提供すると言った。

『白主任』は、車両の性質についての問い合わせに、北京では 120 と 999 を除けばその他の救急車は全て不正規なものだと回答。非公式救急車がなぜ随行医師を抱えているのか？ 「医師は、個人開業のところに通っているものが多く、また、医師資格も持っていない。彼らが言う出鱈目に耳を傾けてはいけない」と白主任は電話口で語った。

上述の車両管理員は、重大事故分隊 37 号に対し、付近の商店経営者が非公式救急車の呼び出しを手伝っており、一般的には商店主に 100 元~200 元に相当する金あるいは煙草や酒を渡しているため、『仲介人とは言えず、商売の手助けをしてくれたので、ちょっとその感謝をしなければならぬだけ』なのだ。

301 医院では、清掃員が重大事故分隊 37 号に対して、「非公式救急車を探したいなら、救急外来科の保安に行くとよい、保安は非公式救急車の社長に連絡が可能で、名刺をくれるか直接合わせてくれるよ」と教えてくれた。「非公式救急車の社長さんは、保安員に客と連絡をさせ、紹介することで 200 元以上をとっ

ているのさ。」

果たして、重大事故分隊 37 号が救急外来科にゆき来意を簡単に説明してみると、保安員は病院の救急外来ビルの一角に連れてゆき、茶色のジャケットを着た男性が迎えに来て、自己紹介を始めた。

この男性は、正規の救急車の搬送費は 25 元/km であり、彼らの方は 20 元だけでいいと言い、車には医師とナースも配備されていて、万一患者搬送中に薬を使った場合には、別途費用徴収することになると語った。車両については、男性は、『我々は全てが正規だよ。非正規なものならライセンスを持っていないんだ。我々は 301 医院の車なんだぜ』と重ねて言った。

この男性の話について、地下駐車場の保安員が、「301 医院の救急車はどれもライセンスを取得していないんだ。(本当は) 病院内部での患者搬送しかできないんだよ」と漏らした。つまり、病院外からやってくる救急車は、外地のものか、或いは非公式救急車かなのだ。この保安員は、記者に名刺を一枚差し出し、「もし車が必要ならこの人に連絡したらよい」と語った。

### 『死人も生ける人も』なんでも搬送することで名をはせる

厳密な推薦ネットワークを除き、重大事故分隊 37 号は調査により、一部の非公式救急車の運営者が、「好き放題に病院に立ち入り患者搬送や様々なレベルのサービスを提供しているが、それだけではなく『生死にかかわらず』搬送できる」と称していることを知った。重大事故分隊 37 号は天壇医院において、ある保安員に非公式救急車の有無を尋ねたところ、傍らにいた中年男性が即座にやってきて、記者が車を探すのを手伝えると言った。

男性が一本の電話をかけて 10 分程待っていると、短髪でがっしりした体躯の男性が重大事故分隊 37 号の前に現れ、一枚のカードを差し出して身を翻して去っていった。カード上には、『北京救急中心 救護長距離組』の文字が書かれており、北京の拡大病院周辺には等しくサービスステーションの住所が表示されていた。

重大事故分隊 37 号が、カード上の電話番号に電話をしたところ、彼らの車両は、正規の救急車であり、普通タイプと豪華タイプに分かれ、普通タイプには救急スタッフの随行はなく、豪華タイプは『大奔』とよばれるもので、重症看護型に属しており、車中には各種救急処置のための設備が配備されており、医療スタッフの随行もあると告げた。

ある保安員は、重大事故分隊 37 号に対し、車両グループが十数車両を有しており、しかも天壇医院にある非公式救急車はこのグループのものだけで、先ほどやってきた短髪の男性こそが救急車の社長であること、駐車場にある『皖 S』が冠せられた救急車こそ、彼の車なのだと言った。

その後 重大事故分隊 37 号は、駐車場で『皖 S』の車両を見つけたが、運転手待機室に座っていた短髪の男性が、先ほど会ったばかりの男性だと気づいた。彼は自分が救急車のオーナーではないと言い、自分が病院周辺の常雇いであり、救急車が来た時には、担架担ぎをしているのだと称した。が、短髪の男性は、重大事故分隊 37 号に対し、救急車は患者の安全搬送を保障した全ての協議書にサインしているので、彼らの救急車は安心してよいのだと請け負った。

天壇医院前のある商店主は、『他の私営救急車は入りたくとも入れない、ここは彼らのシマだから』と漏らした。この店主は、天壇医院で救急車を使う場合、駐車場に行き『皖 S』の車両を探せばそれですむのだと言った。

友誼医院でも重大事故分隊 37 号は同様の紹介を聞かされた。『東四環路の車は、40 分も早く来られるのだが、病院内にも消防署に入れる。車には 120 と記され、回転灯が装着され、正規の許可証も持っているが、これらの車は全て廊坊周辺にある病院のものだ』。友誼医院では、『大高個』の私営救急車オーナーは人垣に周囲を囲まれて、重大事故分隊 37 号に対してこのように語った。

彼は、「2001 年から友誼医院で私営救急車の仕事をしており、既に 16 年が経過した、今は救急車 3 両を持っているが、全て『大福特 (大型の Foton : 中国製車両)』で、友誼医院の正規救急車とまったく一緒だ。搬送距離が長くなったものについては、既に 2 台を廃車にして、次の 2 台を購入するつもりだ」と語ってくれた。

『大高個』は、生きている人を搬送するにとどまらず、死人でも搬送でき、事前に家族と連絡をとって、まず専門の遺体搬送車両を用いて病院から搬出、病院から火葬場に行くと言いつつ、途中で彼らの救急車に移し換えて救急搬送のようにして人を外地に搬送するのだと漏らした。「遺体を外地に搬送することは違法であり、家族と我々が協力し合わないと言いつつ遺体搬送はできない。」

### 『重症患者』も確かに搬送

私営救急車は、本当に『超神業』ができるのか？ 調査の過程において、重大事故分隊 37 号は患者の家族ということにして、闇救急車での患者搬送の旅を体験した。これまで。301 医院において、ある介護へ

ルパーは重大事故分隊 37 号にある連絡方法を教えてくれたが、相手は張偉さんという救急車の乗務員であった。

張偉さんは、「救急車は、10 元/km で、随行医師 1 名と運転手 2 名が同行するが、随行する医師は石家庄にあるある県医院から来ており、医師の執業許可証も見せられる。もし患者が搬送中に応急処置や薬を使った場合の治療費と薬代は別途計算になるが、車内には価格表もあり、利用した薬の数量とその種類により費用を徴収することになる。救急医も別途支払いが必要であるが、薬品と医師の費用についてはどれも、『商談可能』で、3000 元を超えることはない。301 医院から安徽省の亳州までなら、全額で 10000 元前後になる」と説明した。

張さんによると、彼らの会社は 7-8 台の長距離搬送用救急車を有しているが、救急車の許可証は山西省にある県級病院のものだったという。「長距離組の救急車は、全て山西省の病院の許可証を受けているものだが、自分で購入したものではない。一般人が勝手に車両改造することは許されず、救急車は特殊車両に属するものながら 県医院が持っている救急車両は、使われていないものが多い。幹部らは金を稼ぎたい。そこで、彼らと契約をしてその車を使用させているのだ」。

張偉が言うには、患者を搬送する前に搬送協議書を交わすが、『ある意味、双方にとっての保険となるもので、搬送中の車両が交通事故に会った場合や、車上で小さな問題が発生しても救急車側が補償するというもの』となっている。張偉の紹介により、重大事故分隊 37 号は『劉グループ』の責任者と連絡を取り、1 月 17 日に、心臓のバイパス手術をしたばかりの重症患者を心電計付きの車で 301 医院内科棟前から通州のある地区まで搬送すると予約してみた。

1 月 17 日午後 5 時、晋 AL386L のナンバープレートを付けた救急車が、301 医院内科棟のゲート前に直接到着した。搭乗していたのは 3 名で、平服の運転手 2 名、背中に『120 救急』とプリントされた黒いユニフォームを着用、自称医師と名乗るものが載っていた。

車上で、重大事故分隊 37 号は、酸素ボンベと多くの医学設備が据え付けられているのを発見。黒いユニフォームを着たスタッフは、これらの機器がそれぞれ痰の吸引機や呼吸器、心電計だと紹介してくれた。

上述スタッフは、専任医師だと称しており、現時点では長距離の救急搬送を専門にしているが、実家では内科医院をしており、その後邢台医院でも心臓脳血管科と ER で働いていたという。

重大事故分隊 37 号がその就業許可証を見せてほしいと言ったところ、この『医師』は、「証明書はステーションにあるが、ご要望については、劉グループの指示を仰がねばならない。でも安心してください、我々は全員が許可証を持っており、むちゃなことはやれませんから。800 キロという搬送距離は、我々にすれば大した仕事ではなく、一番遠いものでは雲南まで 3000 キロを搬送したこともあるから。」と語った。

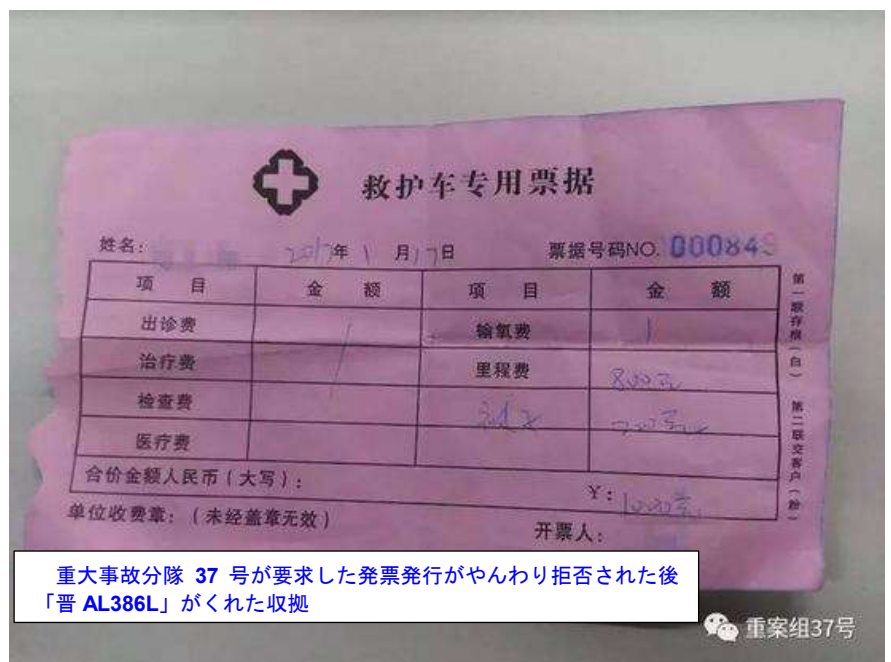
京通ハイウェイ（北京から通州までの高速道路）まで走った後、渋滞に巻き込まれるも、重大事故分隊 37 号が乗車した救急車は、回転灯を灯し、バス専用車線をひたすら走り続けた。『医師』によれば、「彼ら救急車は北京では制限を受けることはない」、とのことだった。理論上、回転灯の使用もまた可能だが、信号無視はできない。「回転灯は、患者を運ぶ際には使えるが、患者無しで戻る際には使えないし、緊急車線を走ることもできないんです」

会社の規模について聞いてみると、この『医師』は、彼らが長距離輸送救急車 10 両を持っており、市をまたいでの搬送も可能だと言った。

目的地到着後、この『医師』は、車代 800 元と、ディスプレイの布団代 200 元を重大事故分隊 37 号に要求した。

重大事故分隊 37 号が、『発票』の発行を要求したところ、相手は

「金額が小さすぎるので発票は出せない」と言い、『收据』だけをくれた（『発票』とは簡単にいうと正式な領収書、『收据』とは、お金を受け取ったよということを証明する単なるメモと思えばよい。ただし、日本



の企業では『発票』も『収据』も同様に出張者費用精算で使われることは多い)。

### 所属単位は『違法営業』を認める

重大事故分隊 37 号 (微信 ID: zhongan37) は、上述のナンバープレート「晋 AL386L」の救急車は山西今宇実業発展有限公司の名で、2016 年 6 月に登記されたものであることを発見した。

工商登記情報によると、山西今宇実業発展有限公司の経営範囲は、コンピュータネットワークのエンジニアリング; 自動制御システムのエンジニアリング; 室内装飾、鉄骨構造の製造据え付け; 日用百貨、服装と帽子・靴、家庭電化製品、装飾材料の卸売り及び小売りとなっていた。

体験が終わったのち、重大事故分隊 37 号は、記者の身分で再び『劉チーム』に連絡を取った。

『劉チーム』は、「晋 AL386L」の救急車について、山西今宇実業発展有限公司の所有だということは確かだとしたが、車両の違法オペレーションについては否定した。彼は、この車両は、彼のある友達のものであり、患者を運んだことはないと答えた。

重大事故分隊 37 号が繰り返し追及したところ『劉チーム』は、最終的に認め、確かに 1 月 17 日に 301 医院に行き、患者を搬送し、金をとったと認めはしたが、『ガソリン代だけ何百元かを貰っただけ』と回答。

が、彼はその後になって、この車両は、偶然北京にきていて仕事をしたので余分の収入を得ただけだと言ってきた。

重大事故分隊 37 号は、その後、山西今宇実業発展有限公司の責任者趙經理 (部課長相当) に連絡をとったところ、彼は「晋 AL386L」の救急車は確かに彼らの会社のものである」と答えた。

趙經理は、この車が、もともと山西省臨汾市のある炭鋳会社のもので、2012 年に炭鋳を売り払ったのちに当該車両が山西今宇実業発展有限公司の資産になったのだと漏らした。

『確実に言えることは、この車が、患者の搬送資格のないもので、炭鋳で負傷した患者を病院に搬送するという、突発事件処理に用いられていたものだということだ。』

『劉チーム』の身分については、趙經理が言うには、これは以前の従業員で、この人物がなぜ違法運営に使われる車と接触できたのか判らないため、幹部に報告をして調査するつもりだと言った。

実際には、「晋 AL386L」のように無資格の『闇救急車』に限らず、重大事故分隊 37 号は調査の中で、大量の外地ナンバーの救急車を見つけたが、調査により、これらが外地県・市級の病院に帰属していることを発見した。

積水潭医院で、重大事故分隊 37 号は、「冀 R2N953」ナンバーの救急車を見つけたが、これが調査の結果、河北省廊坊大城県にある病院のものだと判明。当該医院の救急管理担当者の李氏は、電話の向こうで、この車両は、実際に彼のものであり、瀋陽市の救急車メーカーから購入後は大城県の病院に属しているのだと重大事故分隊 37 号に告げた。「わが県の都市ではみんなこんな感じで、私用救急車は病院名を掲げているんだ」と。

「私用救急車は非常に多く、北京や上海、天津の外地には患者が多く、皆あのように走り回っている。」李と名乗るスタッフは告げた。

関連法執行機関の責任者は、このように大病院周辺に盤踞する外地の救急車は、80%以上が正規の救急資格がなく、医師も無資格であり、車両の多くが私用車両であり、一部のものは外地病院の救急車だが、実際には、衛生部門の現地車両定期審査も受けてはおらず、違法オペレーションをしているのだ、と漏らした。

「もし患者搬送中に、突発事故や交通事故が発生した場合、名前を冠した病院が責任を負うことはない。」この責任者は、このような状況下では、患者と家族の權益が完全に保障されることなどない、と言った。

### 供給が需要に追いつかない長距離搬送マーケット

1 月 16 日、重大事故分隊 37 号は、301 医院内科棟の多くの病室を訪ねた。大部分の患者は『長距離救急車』のカードを何枚も貰っていたが、その合法性について疑う者はほんの僅かしかいなかった。私用救急車は値段が高く、安全性の保障はなく、運転手が臨時増額を要求することもあるという患者も存在した。

山東省からきた患者は、2009 年に 301 医院に腎不全の治療に来たものの家族が治療を放棄した後に、私用救急車を探して山東省に戻すのに付き添ったことがあるが、600 キロ以上の距離を一キロあたり 3 元したという。『最初は、これ以外には費用が掛からず良い話だった。』

搬送中に、運転手が、家族に対して高速代を払うよう要求、そうでないと運転しないといいだし、家族は渋々その要求を受け入れた。山東の実家についた時にはもう遅くなっており、運転手の宿泊費を出せと要求、家族が会社のホテルに泊まるようにとすると、彼は、即座に『安全じゃない!』と拒絶、家族に 300 元を払うように要求したのちに立ち去った。

整形外科二区の王さんという患者は安徽省亳州人だ。寛骨靭帯に問題があり入院していたが、入院中に

安徽省の同郷人という長距離救急搬送車のキャンペーン員が病室にやってきた。このキャンペーン員は、その救急車が 120 救急センターの『長距離組』のもので、安全なので安心してよい、同郷なので、安くしておく、4 元/キロなので、安徽省亳州には 3000 元強だけで帰れるよといった。王さんは、再三再四考えてみたが、自分で車を探したとしても 2000 元強は必要なので、長距離救急車の利用に同意した。

このような状況について、北京市救急センター車両管理課のスタッフ韓超氏は、「北京市救急センターは市民の院前救急と大型活動保障などの活動をしており、患者の長距離搬送看護は主業務ではない」と重大事故分隊 37 号に告げた。

韓超氏は、「救急センターが受ける長距離業務要請の大半は危篤或いは重症の患者であり、一部の患者には既に治療を放棄されているものもいる。故郷に戻りたいという気持ちが強い人もいる。医療看護に対する要求が高くない人もいる。整形外科を退院した患者もいる。身体状況からその他交通機関で帰省することもままならないという人もいる。こういう人たちの状況は緊急の病気とは言えない。一部の家族は 120 救急センターに車がないというときに、院外の私用救急車を選ぶことになるのだろう」と話してくれた。

現在、北京市救急センターが保有している長距離搬送車両と人員は、僅かに 4 班のみ。何故なら、北京には多くの質の高い医療リソースがあり、全国各地からやってくる患者が長距離搬送を望む割合が高いのだが、現有の車両とスタッフは既にそのキャパを超えており、需要に供給が追いつかない状態だ。救急センターには毎日約 20 件からの長距離搬送を望む電話相談が入電しているのだ。韓超氏は、大病院に巣食っている外地ナンバーの救急車は、このマーケットを狙っているのだよと語った。

韓超氏は、正規の救急車は、設備が完備されており、オペレーションも正規のもので、マーケットにある同種の『闇救急車』は、設備やスタッフなどにおいて条件を満たすことが大変難しいのだと話す。彼は、正規の救急車の運行マニュアル上では、車両タイプは『小型専用客車』或いは『専門項目作業車』と書かれており、用途は明確に『救護』とされていると言った。救急センター長距離組の救急車は出庫する一日前に、同行する医師が患者の状況を詳細に把握し、搬送の可否を判断すると同時に、病院の主治医から病状を聞き出すこともするので、患者に必要な呼吸器使用パターンなどを把握している。その後、同行医師は、事前に搬送途上で使用される消耗品を準備するのだ。例えば、10 時間の旅程であれば、18 時間分以上の薬品や酸素吸入器などの消耗品を用意することになる。『いわば一種の移動 ICU なのだ。』

韓超氏は、これらの私用救急車の選択には注意が必要だと語る。北京市衛計委関連部門の責任者は、これらの状況について、昨年、衛生計生委と関連部門が一同に会して何度もの集中取り締まりを行なったが、諸般の理由により成果は極めて小さなものであった。外地救急車の管理は、車両登録地にあり、衛計委は直接その管理にはタッチできず、ある救急車が北京で長期間オペレーションをしているという判断をすることも極めて難しいという面がある。他方で、患者治療を遅らせることもできず、路上で法執行官が直接に彼らを停車させることも困難であり、このような救急車に対する法執行は、例えば衛生計生委が車内で発生した医療行為しか管理できないなど、多部門の協力が必要となり、法執行の難度も高くなるという面もあるのだ。

2013 年 2 月 1 日より施行された『北京市救急車管理弁法』では、北京市医療機構の救急車に関し、『北京市医療衛生機構は国家及び当市の関連規定に基づき救急車を使用せねばならず、不当な改造、貸出、借用、転売、譲渡、調達・配備或いは他の用途への使用をしてはならない。既に取り消しされた救急車を使用すること、当市ナンバーではない救急車が当市で医療サービスに従事することはこれを行ってはならない』と明確に規定している。だが、外地救急車が北京で患者搬送や患者の救急治療を行うことについては、当弁法では言及されていない。

この責任者は、「以前に北京市衛計委が河北省衛生部門に対し、河北省の救急車の管理を強化するようにと要請した」が、彼は、「市場ニーズが存在しているため、北京市によるスポット調査での法執行にはこの問題の根治は困難だが、外部への医療リソースの流れを良くし、外地の患者が現地で治療をできるようにして初めて、このような現象の根本的緩解ができるようになる」のだと認めた。

新京報記者：盧通、戴軒；実習生：張彤

..... 以下は中国語原文 .....

## 黑救护车盘踞北京大医院 无资质称活人死人均拉

新浪新闻 news.sina.com.cn 2017-01-22 00:09 来源：新京报

原标题：“黑救护车”盘踞北京大医院 无资质自称活人死人都能拉

在北京，如何叫到救护车？这个问题的答案不一定是打“120”或“999”。

重案组 37 号（微信 ID：zhongan37）近日调查发现，在 301 医院、积水潭医院、友谊医院、天坛医院等大医院周边，可以轻易找到自称正规救护车的各种车辆，这些车多为外地牌照，自称可为患者提供转院、场站接送、急救等服务，车主们将关系网撒向医院内部，护工、清洁工等都会为他们介绍生意。

据知情人士透露，这些盘踞在大医院周边的外地救护车，80%以上都没有正规的急救资质和持证医生，车辆多为私人拥有，有些所谓挂靠在外地医院的救护车，实际上已经很多年没有经过当地车辆、卫生部门年检审核，属于非法运营。

早在 2012 年，重案组 37 号（微信 ID：zhongan37）就曾关注北京“黑救护车”乱象。4 年过去，重案组 37 号发现这一现象依然存在。北京市急救中心工作人员介绍，本地院前急救车辆不足，正规救护车无法满足长途转运病人的需求，面对市场缺口，聚集在医院周边的黑救护车频频现身，与正规急救车争抢病人。

业内人士表示，选择无资质的“黑救护车”，患者和家属的利益无法得到保障。

北京黑救护车暗访：无资质称啥活人死人都拉 新京报动新闻（ID：xjbdxw）

### 医院内外织成“推荐网”

1 月 9 日至 1 月 17 日，重案组 37 号假称患者家属，在北京多家大型医院展开探访，发现要寻找私人救护车并不困难。

在积水潭医院，一说需要救护车，一名车辆管理员轻车熟路将重案组 37 号带到医院南门旁的一家商店。商店老板称，他介绍的救护车是私人的，车辆绝对没问题，“跟正规救护车一样”。随后，他拿出手机让记者自己跟开救护车的人“对接”。

接电话的人姓马，他表示，自己的车都是正规救护车，车上设备齐全，能配备医生随行，医生“都是从医院出来的”，具备医师执照。如果运送途中病人出现紧急情况，医生能够立马开展急救。如果需要用药，则需在商定的运送费用外再加药费。马先生承诺，可以提前看车，看完车付定金就可进医院拉人。如果使用“大奔”，每公里大约 20 元。

重案组 37 号以马先生报价太贵为由希望另找一辆车，马上就有另外一名车辆管理员提供了一个手机号。对方自称“白主任”，可以提供私人救护车，只需 5 元一公里。

问及车辆性质，“白主任”在电话中承认，在北京除了 120 和 999，其他救护车都不正规。私人救护车为何能有医生随行？“有什么医生，就是多去个人，医生执照什么都没有，别听他们瞎说。”“白主任”在电话中说。

上述车辆管理员告诉重案组 37 号，附近商店老板几乎都能帮忙找私人救护车，对方一般会给商店老板一两百块钱或等值的烟酒，“不能说是中介，你帮忙介绍生意，人家也要感谢一下。”

在 301 医院，一名清洁人员告诉重案组 37 号，想找私人救护车就去找急诊科的保安，保安会联系私人救护车老板，提供名片或者直接见面。“私人救护车老板都会让保安帮忙联系客户，介绍成一个就能得两百或者更多。”

果然，重案组 37 号来到急诊科简单说明来意后，一名保安就把重案组 37 号拉到医院急诊大楼的一个角落。随后一名身穿棕色夹克的男子迎上来，做起了自我介绍。

该男子称，正规救护车运送病人每公里收费 25 元，他们只收 20 元，车上配备医生和护士，如果病人在运送过程中需要用药，会另外收取费用。问及车辆性质，男子连称“我们都是正规的，不是正规的怎么能上牌照呢，我们就是 301 医院的。”

针对该男子的说法，地下停车场一名保安透露，301 医院自己的救护车都没上牌照，只能在医院内部运送病人。所以，从医院外面来的救护车，要么是外地的，要么就是来“趴活”的私人救护车。这名保安递给记者一张名片，称如要用车可以联系这个人。

### 号称“死人活人”都能拉

除了严密的推荐网络，重案组 37 号在调查中发现，在部分医院，一些私人救护车运营者自称可以随意进医院接送病人，能提供不同等级服务，并且“死人活人”都能拉。

在天坛医院，当重案组 37 号询问一位保安人员是否有私人救护车时，旁边一名中年男子立马凑了上来，表示能帮记者找到车。

男子拨通一个电话，等待近 10 分钟后，一名留着短发、体型壮硕的男子出现在重案组 37 号面前，拿出一张小卡片递给记者后转身离去。卡片上印有“北京急救中心救护长途组（长途专送）”的字样，地址标明北京各大医院周边均有服务站。

重案组 37 号按照卡片上的电话拨打过去，电话那头表示，他们的车辆是正规救护车，分普通型和豪华型，普通型没有急救人员随行，而豪华型就是“大奔”，属于重症监护型，里面配备各种急救设备，并且有医护人员随行。

一名保安告诉重案组 37 号，介绍车辆的这伙人，有十多辆车，而在天坛医院，只有这一家私人救护车，刚刚过来的短发男子就是救护车的老板，停车场里一辆“皖 S”打头的救护车就是他的车。

重案组 37 号随后在停车场找到了这辆“皖 S”车辆，而驾驶室里坐着的，就是刚才的短发男子。他否认自己是

救护车老板，称自己就是在医院周边等着“揽活”，救护车来的时候抬病人搭把手。不过，短发男子向重案组 37 号保证，用他们的救护车可以放心，因为用救护车之前都会签署一份协议，保证把病人安全送达。

天坛医院门口一商店老板透露，“别的私人救护车想进来也进不来，这一块属于他们。”这名老板说，在天坛医院用救护车，去停车场找“皖 S”就可以。而这些车辆能耐很大，死人活人都能拉。

在友谊医院，重案组 37 号得到了类似介绍。“车在东四环，提前 40 分钟就能过来，不仅能开进医院，还能开进火车站，车牌中带有 120，闪着灯，有正规执照，全都挂靠在廊坊那边的医院。”在友谊医院，一位被周围人称为“大高个”的私人救护车车主，这样向重案组 37 号介绍。

他表示，自己从 2001 年开始在友谊医院蹲点做私人救护车，到现在已经 16 年了，现在有三辆救护车，都是“大福特”，跟正规 120 的救护车是一样的。因为跑长途耗车，已经跑废两辆车，打算再买两辆。

“大高个”透露，不仅活人能拉，死人也能拉，和家属提前串通好，先用专门拉死人的车辆把尸体从医院拉出来，跟医院谎称是要拉去火葬场，中途再换成他们的救护车，装着在急救的样子把人拉外地。“把尸体拉往外地属于非法运尸，必须家属跟我们合作起来编瞎话，才能把尸体拉出来。”

### “重症病人”照拉不误

私人救护车是否真的如此“神通广大”？调查过程中，重案组 37 号假称患者家属，亲身体验了一趟“黑救护车”运送患者的旅程。

此前，在 301 医院，一名护工给了重案组 37 号一个联系方式，对方是一个名叫张伟的救护车业务员。

据张伟介绍，救护车跑长途 10 块钱一公里，随车医生一名，两名司机，随车医生来自石家庄的一个县医院，可以查看医生的医师执照，如果在途中需要急救或者用药，急救、药费另外计算，车内有价格表，会根据用药数量和种类收费。急救医生也需要另外付费，不过药品和医生的费用“都可以商量”，不会超过 3000 块钱，比如从 301 医院到安徽亳州，全部费用在 10000 元左右。

在张伟口中，他们的公司有七八辆长途救护车，救护车牌照挂靠山西一个县医院。“长途组的救护车都是跟山西医院挂钩的，不是自己买的车，私人不能买车拿来改装，救护车属于特种车辆，县医院的救护车闲置的多，领导也想赚点外快，就跟他们签合同，把车拿来用。”

张伟说，运送病人之前会签署一个转运协议，“就是双方的一个保险，中途产生交通事故或者车上的小问题由救护车承担。”

通过张伟介绍，重案组 37 号联系上车队一位名为“刘队”的负责人，约定 1 月 17 日从 301 医院内科大楼前出发，运送一名假称刚刚做完心脏搭桥、需要心电监护的重症患者前往通州某小区。

1 月 17 日下午 5 点，一辆号牌为晋 AL386L 的救护车直接开到 301 医院内科大楼门前，车上共三人，其中两名司机，身着便服。一名工作人员身着黑色制服，自称医生，后背印有“120 急救”字样。

在车上，重案组 37 号看到配有氧气瓶及多台医学设备，据黑色制服工作人员介绍，这些仪器分别是吸痰器、呼吸机和心电监护仪。

上述工作人员自称是全职医生，目前专门跑长途急救重症监护车型，曾在老家医院干内科，后来在邢台医院待过，做过心脑血管专科和急诊。

当重案组 37 号要求查看其执业证书时，这名“医生”表示，证书在站里，查看需向“刘队”请示，“你放心，我们都是持有证书的，不可能胡来。800 公里对我们来说都是小活儿，最远送病人到云南，一趟 3000 公里。”

走到京通快速路后，由于堵车，重案组 37 号所坐救护车一直在公交专用车道行驶，并闪烁警灯。随车“医生”介绍，他们是救护车，在北京不限号。理论上闯红灯也可以，但是不到万不得已不会闯红灯。“拉着病人可以闪灯，回来没病人就不能开闪灯，也不能走应急车道。”

谈及公司规模，这名“医生”介绍，他们跑长途的救护车超过 10 辆，跑市内的也有。

到达目的地后，这名“医生”向重案组 37 号收取了 800 元车费，另因被褥是一次性的，加收 200 元被褥费。重案组 37 号提出是否可开发票，对方称数额太小无法开票，只开了一张收据。

### 所属单位承认“非法运营”

重案组 37 号（微信 ID：zhonganzu37）查询得知，上述晋 AL386L 牌照救护车登记在山西今宇实业发展有限公司名下，登记时间为 2016 年 6 月。工商登记信息显示，山西今宇实业发展有限公司经营范围是计算机网络工程；自动系统控制工程；室内装潢；钢结构制作安装；日用百货、服装鞋帽、家用电器、装饰材料的批发及零售。

体验结束后，重案组 37 号（微信 ID：zhonganzu37）以记者身份再次联系“刘队”。“刘队”表示，晋 AL386L 牌照救护车确属山西今宇实业发展有限公司所有，但他否认车辆是非法运营。他表示，这辆车是他一个朋友的，并没有运送过病人。

在重案组 37 号反复追问下，“刘队”终于承认，1 月 17 日确实到 301 医院拉了人，并收了钱，“可能只收了几百块钱油费。”但他随后表示，这辆车只是偶尔来北京拉个活儿，挣点外快。

重案组 37 号随后联系山西今宇实业发展有限公司相关负责人赵经理，赵经理表示，晋 AL386L 牌照救护车确实归

属他们公司。赵经理透露，这辆车原属山西临汾一家煤矿，他们公司在 2012 年收购该煤矿后，该车辆即变成他们公司资产。“可以确定的是，这辆车并没有转运病人的资质，只是煤矿用于运送伤者到医院，处理突发情况所用。”

至于“刘队”的身份，赵经理表示，这是公司一名前员工，至于其为何能联系车辆进行非法运营，他还需要向领导汇报后进行调查。

实际上，不仅晋 AL386L 牌照救护车的真实身份为没有资质的“黑救护车”，重案组 37 号调查中发现的大量外地牌照救护车，经查询均归属一些外地县市级医院。

因) 重案组 37 号索要发票被婉拒后，晋 AL386L 号牌车辆给开具的收据。

在积水潭医院，重案组 37 号发现一辆冀 R2N953 牌照的救护车，经查询隶属河北廊坊大城县中医院。该院一名负责管理救护车的李姓工作人员在电话中告诉重案组 37 号，这辆车其实就是他自己的，从沈阳一救护车厂家买进后，挂靠在大城县中医院，“我们这边县城都是这样的，私人的救护车挂靠在医院名下。”

“私人救护车太多了，北京、上海、天津外地病人多，大家都是那么跑的。”李姓工作人员称。

相关执法部门一名负责人透露，这些盘踞在大医院周边的外地救护车，80%以上都没有正规的急救资质和持证医生，车辆多为私人实际拥有，有些所谓挂靠在外地医院的救护车，实际上已经好几年没有经过当地车辆、卫生部门的年检审核，属于非法运营。

“如果在运送病人期间出现突发情况或者交通事故，挂靠的医院不会负责任。”这名负责人说，在这种情况下，患者和家属的权益完全没有保障。

### 供不应求的长途转运市场

1 月 16 日，重案组 37 号探访 301 医院内科大楼多个病房，大部分患者表示收到过不止一家“长途救护车”的小卡片，不过鲜有患者对其合法性提出质疑。也有患者表示，私人救护车价格太贵，安全性无法保障，自己就曾遇到司机临时加价。

一位山东患者称，2009 年，他曾护送一位同事来 301 医院治疗，因肾衰竭，家人放弃治疗后，找了一辆私人救护车护送回山东，全程 600 多公里，每公里报价 3 元，“当时说的好好的，除此之外没有别的费用。”

运送过程中，救护车司机要求患者家属自付高速公路过路费，否则不开车，家属无奈之下只好接受。回到山东老家时天色已晚，司机要求家属解决其住宿问题，家属提议司机住在单位合作宾馆，对方马上拒绝，称“不安全”，又向家属索要 300 元后离去。

骨科二区一位王姓患者是安徽亳州人，因为髋部韧带方面问题住院，住院期间有一位自称安徽老乡的长途救护车推销员来到病房。这名推销员告诉王先生，这种长途救护车是 120 急救中心“长途组”，安全完全可以放心，因是老乡，可以便宜点，每公里 4 元，回到安徽亳州只需要 3000 余元。王先生再三思量，自己找车回家也需要 2000 多元，于是同意使用这种长途救护车。

针对这种情况，北京市急救中心车管科工作人员韩超告诉重案组 37 号，市急救中心主要负责市民的院前急救和大型活动保障等工作，患者的长途转运护理并非主要业务。

韩超介绍，在急救中心接到的长途业务申请中，大部分都是危重症病人，其中一些患者已经放弃治疗，归乡心切，对医疗护理的要求并不高，还有些骨科出院的病人，因身体情况无法乘坐其他交通工具，这些情况都属于非紧急病症，一些家属咨询 120 急救中心没车时，可能就会选择医院外的私人救护车。

目前，北京市急救中心负责长途转运病人的车辆和人员只有 4 个班组，因为北京聚集了大量的优质医疗资源，来自全国各地的患者对于长途转运的需求量较大，现有的车辆和人员已经满负荷运行，但仍供不应求，急救中心每天大约能接到 20 个有长途转运需求的咨询电话。韩超介绍，大医院外揽活的外地救护车正是看到了这个市场。

韩超介绍，正规救护车设施齐全、操作正规，市场上的这些“黑救护车”，在车辆、设施、人员等方面都很难满足条件。他说，正规救护车的行驶本上，车辆类型一栏会写着“小型专用客车”或“专项作业车”，使用性质明确为“救护”。急救中心长途组救护车在出车前一天，随车医生会详细了解病人情况，判断是否可以转运，并会前往医院，向主治医生了解病情，了解和病人相匹配的呼吸机使用模式等，还会在医院开出沿途可能使用的药物。在这之后，随车医生会提前准备各种途中会用到的耗材。比如路途预计 10 个小时，会超额按 18 个小时准备药品和氧气等耗材，“说白了就是一个能移动的 ICU。”

韩超提醒患者，对这些私人救护车要谨慎选择。

北京市卫计委相关部门负责人表示，针对这类现象，去年卫计委与相关部门一同进行过数次集中抽查打击，但是由于各方面原因收效甚微。一方面，外地救护车的管理在注册地，卫计委无法对其进行直接管理，也很难判断某辆救护车是否在北京长期运营。另一方面，由于不能耽误病人救治，路面执法人员很难直接拦下对其进行盘查，且对此类救护车的执法涉及多个部门，如卫计委只能对车内发生的医疗行为进行管理，这也增加了执法难度。

2013 年 2 月 1 日起施行的《北京市救护车管理办法》对于北京本地医疗卫生机构救护车有明确规定“本市医疗卫生机构必须按照国家及本市有关规定使用救护车，不得私自改装、出借、借用、转卖、转让、调拨救护车或挪作



它用，不得使用已注销机构救护车、非本地牌照救护车在本市从事医疗服务。”不过，对于外地救护车在京从事转运、急救病人的情况，该办法并没有提及。

这位负责人告诉重案组 37 号，前段时间北京市卫计委与河北省卫生部门进行过沟通，希望他们对属地救护车加强管理。不过他向重案组 37 号坦承，由于存在市场需求，光靠北京抽查执法很难根治问题，只有随着医疗资源向外疏解，外地患者能够在当地完成治疗，这样的现象才会得到根本缓解。

新京报记者 卢通 赵力 戴轩 实习生 张彤

责任编辑：李伟山

20170122A 北京の大病院に巢食う闇救急車 死人搬送も可能と(新浪)